

高田議員（民主県政会）

令和7年9月18日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 公立高校の在り方について

公立高校の存在意義をどのように捉え、在り方について今後どのような方向性を目指していくのか、教育長の所見を伺う。

(答)

高校教育を取り巻く状況は、

- ・ 少子化に伴う生徒数の減少を始め、
- ・ 不登校傾向にある生徒や日本語指導のサポートを必要とする生徒など、多様化する生徒への対応、
- ・ いわゆる高校授業料無償化の推進

など、大きく変化しているものと認識しております。

こうした中、公立高校、とりわけ県立高校におきましては、

- ・ 私立高校の状況等を踏まえながら、県全体の教育水準の維持・向上を図ること、
- ・ 生徒の多様な能力、適性、興味・関心等に応じた学びを実現すること、
- ・ 専門的な知識や技術を身に付けたい生徒や、働きながら学びたい生徒にも必要な教育を提供すること、
- ・ 県内各地域でこうした高校教育を受ける機会を確保すること

などの役割があり、先の状況変化とあいまって、公立高校の存在は益々重要になっていると考えております。

このため、教育委員会といたしましては、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を図る教育活動及び教育環境の充実などの生徒・保護者のニーズや、今後の地域・産業の発展を支える人材を育成するといった社会のニーズを踏まえて、県立高校の特色化・魅力化を図るとともに、生徒一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動の機会を確保しつつ、全県的な視野に立って教育を提供することができるよう、県立高校の配置の適正化を図る方向で取り組んで行く必要があるものと考えております。

これらの具体的な内容につきましては、今後、国において示される予定の高校教育改革に関するグランドデザインの動向も十分に踏まえながら、「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」を策定する中で、お示ししてまい

りたいと考えております。